

本邦におけるロボット手術の現況 —産婦人科における導入—

Robot-assisted surgery in Japan -Our experience in Gynecology-

講師:井坂 恵一 氏 (東京医科大学 産科婦人科学教室 主任教授)
Professor Keiichi ISAKA

(Department of Obstetrics and Gynecology, Tokyo Medical University)

日時:平成25年4月12日(金)17:30～ April 12th (FRI) from 17:30

場所:医学教育図書棟 3 階 第2講義室

Lecture Room 2, Medical Education & Library Building 3F

* 抄録 *

本格的なロボット手術の導入は、1999 年米国において手術支援システム「da Vinci」が医療機器として FDA から認可を受けたことに始まる。以来、泌尿器科を中心に発展し、現在米国においては前立腺癌手術の 80%以上がロボット手術で行われ、ゴールドスタンダード術式となっている。本邦においても昨年、ロボット支援の前立腺摘除術が保険収載されたことにより、ここ一年で急速な普及が始まり現時点で米国に次いで世界第二位の da Vinci 保有国となった。しかし、これは泌尿器科における普及であり、決して婦人科における普及が始まった訳ではない。一方で、世界的に見ると産婦人科における da Vinci 使用頻度は最も多く、2010 年には子宮全摘術が全ロボット手術症例の 45%を占め前立腺摘除術を抜いて第一位となり、次世代の婦人科手術としてその地位を着々と固めつつある。社会保険制度や国民性の違いもあり、このような普及が直ちに本邦において当てはまるとは限らないが、世界の趨勢からみると近い将来多くの腹腔鏡下手術は da Vinci などを用いたロボット手術に移行するものと考ええる。

本講演では我々の経験を踏まえ、本邦におけるロボット手術の現況ならびに婦人科領域における有用性、将来の展望などについて紹介する。

<経歴>

昭和 51 年 東京医科大学卒業

昭和 59 年 スイス、ジュネーブ大学留学

昭和 60 年 英国、ロンドン大学留学

平成 15 年より、現職

担当:産科婦人科学分野 片渕秀隆 教授

e-mail:buchi@kumamoto-u.ac.jp

医学教務:iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp

